

## 第 90 回東京女子医科大学学会総会

日時：2024 年 9 月 28 日（土曜日）13：30～15：30

会場：WEB（Zoom ウェビナー）

対象：東京女子医科大学学会 会員、東京女子医科大学 学生・教職員、一般

※総会は WEB 決議といたします

### 公開シンポジウム「女子大教育の将来」

座長（学校法人東京女子医科大学 統合教育学修センター 教授）西井 明子

開会の挨拶（東京女子医科大学学会 会長代行）中神 朋子

挨拶・趣旨説明

1. 今日の女子大学の存在意義

（国立大学法人お茶の水女子大学 教授、ジェンダー研究所 所長）戸谷 陽子

2. 生涯学習の重要性とネットワークの構築

（学校法人日本女子大学 現代女性キャリア研究所 所長）永井 暁子

3. 女子大に工学部が必要な理由－背景・教育内容・目標－

（国立大学法人奈良国立大学機構 奈良女子大学 工学部 教授・学部長）藤田 盟児

4. 女子大における総合政策学部の社会的役割と卒業生の活躍

（学校法人津田塾大学 副学長(広報・学生担当)、

総合政策学部 総合政策学科 教授) 奥脇奈津美

パネルディスカッション

閉会

## 1. 今日の女子大学の存在意義

(国立大学法人お茶の水女子大学 教授、ジェンダー研究所 所長) 戸谷陽子

2024年6月発表のジェンダーギャップランキング指数(世界経済フォーラム)は、調査対象146か国のうち118位で、前年の125位からわずかに上昇したものの、主要7か国の中では最下位と、先進国の中で著しく低迷する状況は長らく変わっていない。順位の低さが注目され社会の問題意識が高まるのはよいこととして、社会における不平等を確実に解消してゆくために、わたくしたち女子大学教育従事者の使命はいつそう重要であると考えます。

女性というカテゴリ集団がその社会的地位を向上させるためには、高等教育の機会を提供し、自身の財産および身体の管理を自律的に行うことができる環境を整備し、既存の意識や制度を確実に変革することが必要である。19世紀半ば欧米に端を発した第一波フェミニズムは、女性の法的、政治的な権利を獲得するための運動であった。女性の参政権獲得後20世紀半ばに起こった第二波フェミニズムが強調したのは、これらに加え精神的な男性支配からの解放であるが、ジェンダーギャップランキング指数を見れば、女性の平等な社会参加が十分に達成されていないことは明らかである。

本報告では、そもそも現代社会において、ジェンダーや人種の多様性を尊重することは、社会の持続的な発展になぜ不可欠なのかを確認しつつ、主にロールモデル、リーダーシップ、メンターの創出といった観点から、今日女子大学が高等教育・研究機関として担う役割をあらためて検討したい。

## 2. 生涯学習の重要性とネットワークの構築

(学校法人日本女子大学 現代女性キャリア研究所 所長) 永井暁子

キャリアは職業だけにかかわらず、家族を含む生活全般にもあてはまり、労働市場の変化は、学校教育や職業教育、職業につくまでの道のりを変え、職業についてからのあるいは再就職のための学び直しの必要性を増加させた。今こそ、広い意味でのキャリア教育が必要なのである。

創立者の成瀬仁蔵は、建学の理念として、創立当初から生涯教育の重要性を唱えていた。そして成瀬の教育理念とは、自らの人格を高め、使命を見出し、全身全霊を尽くして前進することを示す「信念徹底」、各自の創造的能力の尊重と開発に努める「自発創生」、より良い社会をつくるための連帯感と協調を図ることを教える「共同奉仕」の三綱領に表れている。本学では創立者の理念は現代に引き継がれるべきものと考え、現役学生に対してのキャリア教育に活かしている。またリカレントやリスキリングが注目を浴びる現代において、男女にかかわらず生涯教育の重要性は増している。本学においては生涯学習センター、リカレント教育課程などを通じて、大学卒業後のキャリア形成に対してサポートを行ってきた。本報告では、女子大学ならではの多様なキャリアモデルを提示するキャリア教育の例について紹介する。また、本学の特徴として卒業生の会「桜楓会」や学科や学科独自の卒業生の会がもつネットワークや多様な機能が挙げられる。とりわけ現役学生へのキャリア教育支援と卒業生への学修支援や再就職支援は重要な位置を持つものであり、本報告において具体例を紹介する。

### 3. 女子大に工学部が必要な理由－背景・教育内容・目標－

(国立大学法人奈良国立大学機構 奈良女子大学 工学部 教授・学部長) 藤田盟児

令和4年4月に奈良女子大学は、わが国の女子大学で初めて工学部を設置した。現在は、3期生が入学し、編入生も1期生が入学している。本学部は定員が50名程度と小さく、工学科という一学科しかない。それは、女子大学だからという面と、変容する現代の社会と工学に対応するためという面がある。

女子大学だからという面は、女性だけで学ぶ高等教育機関がそれほど必要と考えられていなかったため、大学全体の定員が少なく、その中で設置せざるを得なかったからである。しかし、女性だけで学ぶ環境には独自の意義があることを説明したい。

一学科にしたことは、現在の社会と工学が置かれた歴史的な位置づけが理由である。18世紀にジェームズ・ワットが蒸気機関を発明することで始まった産業革命は、200年に渡る機械動力と開発の時代を現出させた。しかし、20世紀後半のコンピューターとIT技術の誕生は、人工知能とネットワーク社会を我々の社会にもたらし、生活と産業を加速度的に変えている。このように不確定な未来に向かっていく時代に、過去の枠組みに囚われたカリキュラムや創造性が育ちにくい教育は、未来を生きる人間の教育として不相当であると判断し、自由履修制とSTEAM教育を基盤にした。

以上のことと、これまでの経過と将来の目標について述べたい。

### 4. 女子大における総合政策学部の社会的役割と卒業生の活躍

(学校法人津田塾大学 副学長(広報・学生担当)、

総合政策学部 総合政策学科 教授) 奥脇奈津美

専門知識と幅広い視野を身につけ、社会に貢献できる自立した”all-round women”の育成を目指した津田梅子の建学の精神は、津田塾大学の教育理念として今日も受け継がれている。伝統ある英語教育や少人数制セミナーを柱とし、それぞれの時代が要求する高度な人材を社会に送り出してきた。そして少子高齢・人口減少社会の進展やグローバル化、ICTの発達など更なる社会変動の只中にある2017年、津田塾大学は、諸問題の解決に取り組むリーダーシップを備えた女性人材の育成を目指し、女子大初となる総合政策学部を新たに千駄ヶ谷に設立した。この学部では、多様な価値観をもつ他者との間で合意を形成するための「英語」、社会の仕組みを理解する「ソーシャル・サイエンス」、データ分析を通して課題を特定する「データ・サイエンス」の3つの力を基礎とした文理融合のカリキュラムによる学びのほか、地方の産業界や自治体との地域連携などの実践的アプローチも取り入れている。本稿は、文系・理系の垣根を超えた総合政策学部の幅広い学びとその特質、育成しようとする基礎的な3つの力と4つの専門領域、それらを支える教育理念、そして、これまでに送り出した3期生までの卒業生の活躍について紹介する。そして、在学生や卒業生の声を聞きながら、女子大に総合政策学部があることの社会的役割について考える。